

平成29年3月8日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢
(コード2388 東証JASDAQ市場)
問合せ先 開示担当 小竹 康博
(TEL 03-6225-2207)

GLの財務諸表と監査報告書（無限定適正意見）について

当社の重要な子会社でありますSET(タイ証券取引所)上場のDigital Finance会社Group Lease PCL(以下GL)は、2017年2月28日に監査完了後の財務諸表を公表いたしました。当該財務諸表と監査報告書について株主の皆様からのお問い合わせを受けておりますので、当該内容をご説明いたします。

このたび、2016年度末の監査に関しまして監査法人EYの監査報告書が提出されました。この意見は無限定適正意見であり、GLの財務諸表が適正であるとされています。一方で、これにつきまして投資家や株主の皆様より、わかりにくい部分があり心配になっているとのご指摘があり、本日ここに説明いたします。

会計監査人の意見書には3つの重要な事項があります。

一つ目はGLのLoan Receivablesについての説明、二つ目はGLの新しく買収したCCF買収価格についての説明、そして三つ目はそれらの詳細を把握した上で、GLの財務諸表が無限定適正であるという結論です。

当社としては今後のGLの成長戦略を示すためにもこれらのことについて監査人が詳しく説明していることを歓迎しており、会計監査報告書にもありますように、会計監査人の求めに応じて全ての資料を提出し、無限定適正意見にて完全に適正な財務諸表であるという意見を得たものです。

したがって、会計監査人が何かを疑っているという内容ではなく、そのような詳細な事実まで把握した上で、無限定適正にしたというものです。

Loan ReceivablesはGLがカンボジアで行なっているSMEローンに関わるものです。当該内容は新しいものではなくすでに2015年末の財務諸表において詳しく解説されています。

これはGLが2015年から行なっている事業であり、大きく成長した部門です。カンボジアにおけるGLがリース等を提供する、オートバイ、農機具、エネルギーなどの各種器具等のディーラーに貸し付けるものです

この事業はカンボジアにおけるビジネスパートナーと事業を展開しており、会計監査人はそのうち大きな2社についてより詳しい説明をしています。

これら2社はカンボジア並びに当社与信提供におけるパートナーであり、回収においても協力するパートナーです。

この事業は現在順調に成長しており、売上高で2015年の173.4百万パーツが、484.9百万パーツに増加しました。

これらの融資のリスクマネジメントのために、GLは4つのことを行なっています。

一つ目は融資審査上のリスクマネジメントとして、GLと1年以上取引のあるディーラーにのみ貸し付けています。

これはすでにGLの財務諸表上において2015年末より開示している通りです。(Note 5 Master Dealer Agreement)

二つ目は経済的リスクマネジメントとして、パートナーからの担保提供を受けています。

担保には、各種国債、土地、その他の証券による担保、個人保証、GL株が含まれています。

GL株をSMEローンのパートナーが保有しているのは、彼らがパートナーとしてGLの事業成長に期待して、株式を保有していただいていたもので、本事業が始まる前からの長期にわたって株式を保有していただいています。

当社マネジメントとしては、GLのDigital Finance事業への強い自信があり、何よりも好ましい担保であると考えて担保提供を求めたものです。

三つ目は事業運営上のリスクマネジメントとして、2015年当初に開始した時には少額かつ3ヶ月程度の短期融資から開始し、収益性とデフォルトがないために安全であることが確認された後に、金額を徐々に増やすとともに、長期融資に切り替えて行っています。

四つ目は法的なリスクマネジメントとして、シンガポールやキプロスにパートナー子会社を設立しこれらの会社を通して融資を行なっています。

シンガポールやキプロスはカンボジアに比べ、当社にとって有利かつ安定した法律制度で、リスクの低減を行なっています。また、それらの国の優れた税制度がGLの利益となります。

GLは現在、このSMEローン事業は大きく発展する事業であると考え、ミャンマーやインドネシアなどの国においても一層リスクマネジメントを強化しながら拡大させます。

GLは昨年末スリランカに上場する最大のファイナンス会社の一つであるCCFを買収いたしました。

当該取引について会計監査人は当該取引が当時の市場取引価格よりも98パーセント高いとしています。

当該取引は合計24億62百万パーツで29.99%のCCF株式を買収したものととなります。

当該会社は2010年より2016年の間に資産が54倍、純利益が320倍に増加している急成長企業であり、総資産額はGL自体よりも大きいスリランカ随一のファイナンス会社でもあります。

株価は当時の市場価格よりも高いものの、GLとしては純利益に対してPER10.6倍にて当該企業を買収したことに満足しております。

なお会計監査人は利益剰余金に対して8倍であるとの計算によりPER8倍で買収したと言及もしております。

株主の皆様、投資家の皆様、上記の事実をお知らせするとともに、現在広められております、各種の虚報に惑わされないようお願い申し上げます。

またここまで述べました全ての情報はGLの財務諸表内にさらに詳しく説明されており、すでに1年以上開示されております。全く新しい情報ではありません。

今回の財務諸表の発表にあたっては、今後のSMEローンやCCFの成長と成長可能性を鑑みてGL経営陣自体がこれを開示したいと望んだものです。

今後のGLの世界展開を進めていくにあたって、キーとなるこれらの情報を皆様にお届けできましたことを心から幸いと考えております。

現在Digital Finance事業は中長期的に確実に成長しており、今後さらに大きく成長する地点に到達いたしました。

このたびはご心配をおかけして申し訳ありません。今後とも全身全霊にて事業の成長に没頭いたしますので、皆様のご支援、ご理解を何卒よろしくお願い申し上げます。

以 上